

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	くろばーキッズ			
○保護者評価実施期間	R7年1月15日 ～ R7年3月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	43	(回答者数)	34
○従業者評価実施期間	R7年1月15日 ～ R7年3月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	R7年3月30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語聴覚士が常駐している為、専門的な視点からのアドバイスを日常的に受けることができる。	子どもたちの情報を日常的に情報共有しながら、話をする時間を取っている。	意識的にカンファレンスを取るなどして、専門的な知識を共有できる時間をとる。
2	保育士経験の長い職員が複数で子どもたちと関わり、様々な見立てを出し合い共有している。（※様々な視点でアプローチができる）	小集団療育では、それぞれの子どもの特性に合わせた関わりをしている。 終了後にみんなで、情報の共有をおこなっている。	それぞれに取り組んでよかった活動などを共有し、療育の充実化、準備時間の短縮をしていく。
3	送迎のサービスがあり、利用されているこども園への送迎が可能なため、仕事をしている方も利用がしやすい。	・送迎中も療育時間ととらえ、車中でのコミュニケーションを積極的におこなっている。 ・それぞれの生活リズムや家庭の事情、距離など臨機応変に対応している。	効率的なルートの選択により、送迎時間の短縮を目指し子どもたちの送迎時の負担を軽減する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事務作業、療育の準備等で就業時間内に仕事を終わることが難しい。	仕事内容の効率化、簡略化ができていない。 保護者と連絡ノートでのや、紙媒体での記録のやり取りをしているので、手間と時間がかかっている。	記録の電磁化や携帯アプリを利用して事務作業の効率化を計れるよう、新しいシステムを導入する。 各職員専用のPCを割り与えられるようPCを購入する。
2	児童発達支援のみの事業所の為、就学に向けて放課後児童デイサービスの案内をしたいが、他施設と連携をとることが難しい。	他機関との連携をとる機会が少ない為、情報の発信が難しい。	児童発達支援センターを保護者に紹介し、放課後等デイサービスへと移行できるようにする。 事業所として、放課後児童デイサービスの情報の提供などができるよう、情報の収集、保護者からの聞き取りなどをおこなっていく。
3	事業所からの情報の発信（避難訓練・感染症情報等）が不足している。	防災や緊急時等のマニュアルは、ホームページなどで公開しているが、日々の情報、避難訓練、感染症の状況などの周知がブログ等で出来ていない。	ホームページの内容を見直し、より多くの情報を発信していく。 ブログなどを活用して、防災への取り組みや事業所の様子など発信していく。